

2026年3月6日 発行

第30号

工務部会
こうむ
NEWS

J R東労組(東日本旅客鉄道労働組合)
工務部会
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
代々木総合事務所5階
NTT 03-5315-0941 JR 058-4112
発行人 杉本博輝 発行 編集委員会

「命を守ろう！」工務安全集会2026

～ 第1セッション ～

「山手貨物線触車死亡事故を風化させず

「安全・健康・ゆとり」働きがいのある職場をつくり出そう」
について組合員からの特徴的な意見です！

- ・パートナー会社では線路閉鎖が当たり前、JRは巡視を見張体制で行っていることから山貨事故のような事故は起こり得るから線路閉鎖で行うべきだ
- ・事故後は対策ができるまで、全ての作業が中止とした。当時は5名の仲間が亡くなり、今後どうなるのだろうと感じた。自分たちが危ない場所で仕事をしていることを認識した。安全な場所で作業することが大事だ
- ・大変なのはヤダ、楽な方がいいという心理になってしまい、みんなと意見を一致していくのに苦労した。「原則線閉」を浸透させる大変さがあった
- ・安全は「自分」とのたたかいである
- ・山貨事故以降にもト口衝撃事故があり、駅への対応など改善を求めてきた。過去の経験を伝えていく
- ・ATOS となって何でもありになっていないか
- ・待避誤りが続き、建築限界内に入る作業の際には管理者の承認が必要となった。今まで昼間に点検を行っていた作業を夜にやらざるを得なくなった
- ・フレックスとなったが顔を合わせて業務を行うことは大切である
- ・原則線閉を言われ続けてきているがなかなか難しい。首都圏ではATOSが普及しているが、CTC線区では電話打合せなど人を介すのでやることが多い。緊急で建築限界内作業を行う際には抑止を取って安全を確認してから作業を行っている。訓練などを通じて伝えていく
- ・ルールが増えていて増やせばいいという感じになっている。もっといいやり方があるのではないか



私たち工務部会は命を最大の価値基軸とし

「安全・健康・ゆとり」働きがいある職場を目指します！